

# 準決勝で強豪に惜敗

## 全日本高校バレー 都市大塩尻(女子)

全国制覇の壁は高かに、スタンドからは大団圓の歓声が送られた。第六十六回全日本バレーボール高校選手権大会で、女子代表の都市大塩尻は十一日、準決勝で東九州龍谷(大分県)と対戦し、セットカウント1-3で敗れた。決勝進出は逃したものの、過去最高のベスト4までたどり着いたチーム



女子準決勝で東九州龍谷に敗れた東京都市大塩尻の選手ら。いずれも東京都渋谷区の東京体育館で

三連戦三回目の出場であり、準決勝の相手は東九州龍谷は十四年連続のインターハイも制した強豪だ。第一セットは厳しいコースを狙うサーブで、二セットも途中まで粘った。第三、四セットを見せたが、最終では重要な場面です。



「最後は笑って終わりたいかった」。その言葉通りにセンターの宮下未菜選手(二年)は試合後、大粒の涙を流すチームメートの頭を抱え、ほほ笑みながら励まし続けた。

本来はレギュラーでチームの中心選手だが、昨年末の練習試合で左肩を脱臼してしまい、この大会は準決勝が初のスタメン出場。肩の状態が万全でないながらも、この試合のアタック決定率42・9%はチーム2位。サーブレシーブ成功率84・0%も1位と攻守にわたり貢献した。

これまで代わって試合に出場し、チームの穴を埋めた主将の牧田春奈選手(三年)は、前日にインフルエンザの

### 輝く笑顔 最後まで 宮下選手

「最後まで輝く笑顔」を誓った。試合後、大粒の涙を流すチームメートの頭を抱え、ほほ笑みながら励まし続けた。本来はレギュラーでチームの中心選手だが、昨年末の練習試合で左肩を脱臼してしまい、この大会は準決勝が初のスタメン出場。肩の状態が万全でないながらも、この試合のアタック決定率42・9%はチーム2位。サーブレシーブ成功率84・0%も1位と攻守にわたり貢献した。

試合後にチームメートを抱きしめる宮下選手(左)

診断を受けてしまい、会場には来られなかった。試合前、牧田選手から渡された手紙には「宮下選手が存在があったから頑張れた」と書かれていたという。

宮下選手は「春(牧田選手)がいたからベスト4になった。勝てなくてごめんね」と牧田選手を気に掛けた。

宮下選手は中学時代、全国優勝を経験した。しかし、身長一六四センチとバレー選手としては小柄。高校でバレーを続けるかどうか迷っていた。普通の高校生に戻ろうかとも考えたが「素の自分でいられるのがバレー」と思い直し、競技を続けようとした。

バレーは「この目で最後まで決めている。」「完全燃焼できたわけではない」と悔しさを認めながら「みんながいたから続けることができた。感謝の方が大きい」と涙を見せなかった。三年間で得た笑顔は、三位メダルよりも輝いていた。(勝股大輝)

プでのミスが目立ち、高さのある相手のブロックなどにも阻まれ、勝負を決められた。岡田隆安監督は「二セット目を取って余計な力が入ってしまった。うちのバレーでベスト4に入れたことが収穫」と敗北にも前を向いていた。

■この記事・写真等は中日新聞社の許諾を得て転載しています。無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会